

不登校・ひきこもり特別委員会行政視察報告

2月5日から6日にかけて、委員8名、事務局随員2名、執行部2名の合計12名で、NPO法人カタリバ、東京都豊島区を視察してまいりました。

■NPO法人カタリバ

～不登校支援について～

NPO法人カタリバは、全国で不登校児童・生徒への支援事業を幅広く展開しています。

NPO法人カタリバでは、どんな環境に生まれ育っても、未来をつくりだす力を育む社会を目指し、全ての10代が意欲と創造性を手にすることができるよう未来を実現することを目的に、様々な事業を行っているとのことでした。

・雲南市教育支援センター（おんせんキャンパス）

不登校や不登校傾向の生徒に対し、個別支援を行い、社会性を身に付けてもらうことを目的に、島根県雲南市に設置されました。

センターでは、子供本人だけでなく、保護者や学校との連携も重視し、アウトリーチ（訪問支援）を通じて、家から出られない子供とも積極的に関わり、継続的な支援を

行っているとのことでした。また、学校とセンターのそれぞれの強みを生かし、切れ目のない（シームレスな）支援を行うことができる環境づくりを目指しているとのことでした。

・アダチベース不登校支援事業

アダチベースは、福祉と教育の行政所管が連携し、不登校や多様な課題を抱える生徒を支援する施設です。居場所やフリースクールを中心に、安心できる環境で社会参画や自立を促進しています。生徒だけでなく、保護者にも個別に対応し、体験支援、食事支援、学習支援を通じて、自己肯定感や探求心を育み、成長できる環境づくりを大切に活動しているとのことでした。



・room・k事業

コロナ禍で失われた居場所づくりとして始まり、不登校でどこともつながることのできない層の子供たちを主に支援しており、子供たちが自信を持ち、社会や他者との信頼を築くことを目指しています。オンラインとメタバース空間を活用し、個別支援計画を通じて、支援コーディネーターとメンターが子供や保護者をサポートしています。外部機関とも連携し、月1回の報告レポートで進捗を学校に伝え、場合によっては学校の出席扱いになるとのことでした。

当市でも、メタバース空間「ビーさぼ」を利用した支援が行われており、地域ごとに新たな支援が広がっています。今後も、全ての子供が自分らしく成長することができるよう社会の実現を目指して、継続的な取組を進めていく必要があると感じました。

■東京都豊島区

～ひきこもり支援について～

豊島区は、平成26年から生活困窮者支援に取り組んできましたが、令和3年7月にひきこもり支援

に特化した窓口を設置しました。

新設された「ひきこもり相談窓口」では、窓口名にあえて「ひきこもり」と明記し、相談者が分かりやすく、相談しやすい環境を整え、個別相談室があり、相談者のニーズに応じて、ドアを閉鎖し、プライバシーを尊重した空間を提供しているとのことでした。



また、「ゴールは就労だけではない」というメッセージを掲げ、相談者に寄り添った支援を行っています。福祉等の専門知識を有する支援員が、ひきこもり情報サイトやSNSを通じて、当事者に直接メッセージを発信し、相談しやすい雰囲気や安心感を提供しているとのことでした。地域イベントや社会参加の機会を提供し、就労に限らず、当事者が自分らしく社会と関わる支援を継続的に行っているそうです。

当市でも、個別相談室を設置し、プライバシーを尊重した空間をつくる必要があると感じました。

■視察を終えて

視察を通して、行政と地域団体が連携し、個々のニーズに応じた柔軟な支援体制が必要不可欠であると再認識しました。

視察で学んだことを踏まえ、今後の委員会の取組に生かしていきたいと思っています。